

定期作況報告

(第5号 平成18年9月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

8月下旬：最高気温および最低気温は各々平年より2.2、3.1 高かった。降水量は平年より0.3mm 少なく、平年対比100%であった。降水日数は平年より2日多かった。日照時間は平年より5.6時間少なく、平年対比89%であった。夏日（最高気温25 以上）は9日連続し、そのうち真夏日（最高気温30 以上）は1日であった。

9月上旬：最高気温は平年より0.2 低く、最低気温は平年より0.8 高かった。降水量は平年より16.3mm少なく、平年対比70%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より12.3時間少なく、平年対比76%であった。夏日は延べ3日であった。

9月中旬：最高気温は平年より1.4 高く、最低気温は平年より0.5 低かった。降水量は平年より41.4mm少なく、平年対比20%であった。降水日数は平年より3日少なかった。日照時間は平年より16.7時間多く、平年対比139%であった。夏日は無かった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	26.7	24.5	2.2	23.2	23.4	0.2	22.2	20.8	1.4	24.1	23.0	1.1
最低気温()	17.8	14.7	3.1	13.8	13.0	0.8	10.2	10.7	0.5	14.1	12.9	1.2
平均気温()	21.7	19.2	2.5	18.2	17.8	0.4	15.9	15.6	0.3	18.7	17.6	1.1
降水量(mm)	60.5	60.8	0.3	38.5	54.8	16.3	10.5	51.9	41.4	109.5	167.5	58.0
降水日数(日)	6	4	2	3	4	1	2	5	3	11	13	2
日照時間(h)	44.8	50.4	5.6	38.8	51.1	12.3	59.6	42.9	16.7	143.2	144.4	1.2

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事 由： 成熟期はいずれの品種・苗も平年に比べ遅れ、特に中苗「きらら397」は平年より9日遅かった。登熟日数は中苗「ほしのゆめ」と成苗「きらら397」が平年並、中苗「きらら397」は平年より7日多かった。

m²当たり穂数はm²当たり穂数は平年対比で81～87%と少なかった。一穂粒数は平年より1割程度多かった。その結果、m²当たり粒数は中苗「きらら397」が平年よりやや少なく、中苗「ほしのゆめ」および成苗「きらら397」はそれぞれ平年対比88、92%と少なかった。

稔実歩合は平年より高かった。m²当たり稔実粒数（m²当たり粒数×稔実歩合）は中苗「きらら397」が平年対比で102%とやや多く、中苗「ほしのゆめ」および成苗「きらら397」は95%前後でやや少なかった。登熟期間の天候は良好であったため登熟歩合が高めに推移した。

これらのことから、m²当たり粒数は平年より少ないものの、成熟期の登熟歩合が高くなることが予想されるため、減収しないと推測される。以上、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品 種 苗	成熟期（月・日）			登熟日数（日）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	9.20	9.11	9	53	46	7
ほしのゆめ 中苗	9.11	9. 9	2	44	45	1
きらら397 成苗	9.14	9.10	4	49	48	1

注1) 平年値は平成11～17年7カ年のうち平成13年（最豊年）、平成15年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「少」を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品 種 苗	m ² 当り穂数（本）				一穂粒数（粒）				m ² 当り粒数（×1000粒）			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	618	712	94	87	49.8	44.6	5.2	112	30.8	31.8	1.0	97
ほしのゆめ 中苗	636	779	143	82	46.4	40.9	5.5	113	29.5	31.9	2.4	92
きらら397 成苗	594	733	139	81	48.0	44.2	3.8	109	28.5	32.4	3.9	88
品 種 苗	稔実歩合（%）				m ² 当稔実粒数（×1000粒）							
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)				
きらら397 中苗	96.8	92.0	4.8	105	29.8	29.2	0.6	102				
ほしのゆめ 中苗	94.8	91.2	3.6	104	28.0	29.1	1.1	96				
きらら397 成苗	96.6	90.7	5.9	107	27.5	29.4	1.9	94				

注1) 平年値は平成11～17年7カ年のうち平成13年（最豊年）、平成15年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「減」を示す。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	22.1	15.7	6.4	61.9	57.0	4.9	81.9 (72.5)	-	-
ほしのゆめ 中苗	36.8	21.2	15.6	81.2	60.0	21.2	90.7 (76.6)	-	-
きらら397 成苗	20.8	13.2	7.6	67.9	54.5	13.4	79.9 (71.4)	-	-

注1) 平年値は平成11～17年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 出穂後40日目の平年値は平成16年のデータが欠測のため4カ年のみのデータから平均を算出しており参考扱いとする。

3) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

2) 秋まき小麦：9月上旬に雨天が続いたため、平年より5日遅い9月11日に播種を行った。

3) 大豆： やや良

事由：主茎長、主茎節数は平年並、分枝数は平年よりやや少ないが、着莢数は平年を上回っている。登熟は順調に進んでいる。

したがって、目下の作況はやや良である。

表5 9月20日の大豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	62	61	1	10.0	10.2	0.2	6.3	7.0	0.7
トヨコマチ	65	63	2	10.8	10.9	0.1	5.8	6.6	0.8
ユキホマレ	58	62	4	9.9	10.8	0.9	4.9	6.0	1.1

品 種 名	着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	92	75	17
トヨコマチ	91	76	15
ユキホマレ	87	79	8

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、17年を除く5か年の平均値。ただし、「ユキホマレ」については平成13年から17年の5か年の平均値で、参考値である。

2) は平年より減を示す。

4) 小豆 : 平年並

事由: 成熟期は概ね平年並みであった。「サホロショウズ」は主茎長、分枝数とも平年並みであった。「エリモショウズ」は、主茎長が平年並みであったが分枝数は多かった。着莢数は、「サホロショウズ」が平年より少なかったものの「エリモショウズ」は平年並みであった。

したがって、目下の作況は平年並である。

表6 成熟期の小豆の生育

品種名	成熟期(月日)			主茎長(cm)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
サホロショウズ	9.1	9.1	0	67	67	0	5.4	5.5	0.1
エリモショウズ	9.5	9.6	1	65	65	0	5.9	5.0	0.9

品種名	着莢数(個/株)		
	本年	平年	比較
サホロショウズ	56	64	8
エリモショウズ	60	59	1

注1) 平年値は、前8か年中、平成15年(最豊)、16年(最凶)、12年(茎疫病発生)を除く5か年の平均値。

2) は平年より早、 は平年より減を示す。

5) ばれいしょ : 良

事由: 枯凋期は平年に比べ大幅に遅い9月9日であった。上いも重は平年より825kg多く、また、中以上いも重も平年より849kg多く、平年対比117~121%であった。また、でん粉価は平年より1.3%高かった。

したがって、目下の作況は良である。

表7 9月20日のばれいしょの生育

品種名	枯凋期(月日)			上いも重(kg/10a)			中以上いも重(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵薯	9.9	8.28	12	5671	4846	825	4880	4031	849

品種名	でん粉価(%)			収量平年比(%)	
	本年	平年	比較	上いも重	中以上重
男爵薯	15.2	13.9	1.3	117	121

注1) 平年値は、前7か年中平成11、16年を除く5か年の平均値。